

看護学部		看護学科					
氏名	岡 京子	職名	専任講師	専攻分野	精神看護	学位名	修士（看護学）
主要業績（著書・研究論文併せて5点以内）							
<p><b>【著書】</b></p> <p>1. 『看護師のための精神科でのコミュニケーションとケア（畠山卓也編著）』株式会社ナツメ社、2021年8月（共著）</p> <p><b>【論文】</b></p> <p>2. 「アルコール依存症者に対する看護師を中心とした多職種チームによる集団認知行動療法の効果の検討」『東京女子医科大学大学院看護学研究科修士論文（平成24年度）』、2013年3月（単著）（学位論文）</p> <p>3. 「精神科入院患者の排泄セルフケアを低下させる要因と回復を促す看護介入—国内の事例研究報告を対象とした文献レビュー—」駒沢女子大学看護学部研究紀要、第1号、2022年（単著）</p> <p>4. 「精神科病院に入院する患者のおむつ使用に至る経緯とおむつ離脱に向けた看護のかかわり」駒沢女子大学看護学部研究紀要、第2号、2024年3月（共著）</p> <p>5. 「精神看護専門看護師による対話を通じた3年間の継続支援を受けた精神科新人看護師の体験」駒沢女子大学看護学部研究紀要、第2号、2024年3月（共著）</p>							
最近5年間の業績（2019年度～2023年度）							
<p><b>【著書】</b></p> <p>1. 『看護師のための精神科でのコミュニケーションとケア（畠山卓也編著）』株式会社ナツメ社、2021年8月（共著）</p> <p>2. 『精神看護学実習ハンドブック（一般社団法人日本精神科看護協会監修）』中央法規出版、2022年9月（共著）</p> <p><b>【論文】</b></p> <p>1. 「精神科入院患者の排泄セルフケアを低下させる要因と回復を促す看護介入—国内の事例研究報告を対象とした文献レビュー—」駒沢女子大学看護学部研究紀要、第1号、2022年（単著）</p> <p>2. 「精神科病院に入院する患者のおむつ使用に至る経緯とおむつ離脱に向けた看護のかかわり」駒沢女子大学看護学部研究紀要、第2号、2024年3月（共著）</p> <p>3. 「精神看護専門看護師による対話を通じた3年間の継続支援を受けた精神科新人看護師の体験」駒沢女子大学看護学部研究紀要、第2号、2024年3月（共著）</p> <p>4. 「長期入院患者を対象とした服薬グループミーティングで語られた患者の服薬に対する思いとその変化」東京都精神科病院協会誌. 別冊：東精協学会特集、35巻、2023. p200-202.（共著）</p> <p><b>【学会発表】</b></p> <p>1. 精神看護学演習におけるロールプレイの意義、第11回日本精神科看護協会東京都精神科看護研究発表会（口頭発表）、2019年11月、東京（共著）</p>							

2. 在宅療養を支える精神科外来看護についての実態調査 第2報 「療養生活継続支援加算」の支援担当者を対象とした調査結果（令和4年度政策調査報告）、第30回日本精神科看護専門学術集会（口頭発表）、2023年11月、埼玉（共著）
3. 在宅療養を支える精神科外来看護についての実態調査 第1報 「療養生活継続支援加算」の支援担当者を対象とした調査結果（令和4年度政策調査報告）、第30回日本精神科看護専門学術集会（口頭発表）、2023年11月、埼玉（共著）
4. 長期入院患者を対象とした服薬グループミーティングで語られた患者の服薬に対する思いとその変化、第35回東京都精神科病院協会学会（口頭発表）、2023年10月、東京（共著）

**【社会活動】**

1. 一社）日本精神科看護協会研修会講師（2020年「メンタル・ステータス・イグザミネーションを学ぶ」）
2. 学校法人後藤学園東京衛生学園専門学校（通信制）非常勤講師（2019年～2023年）
3. 精神看護専門看護師（公益社団法人日本看護協会認定 2013年認定・2018年更新・2023年更新）として、単科精神科病院の看護チームに対する教育・研究活動支援・相談支援（2021年～現在）
4. 一社）日本精神保健看護学会 選挙管理委員（2020年～2021年、2022年～2023年）
5. 一社）日本精神保健看護学会学術連携委員（2023年～現在）